

オープンデータ・デイ 2024 in 沖縄 イベントレポート

タイトル：オープンデータ・デイ 2024 in 沖縄 ～防災・減災～

日時：2024年3月17日(日) 13:30～16:30

場所：宜野湾市役所 3階 第1会議室（宜野湾市野嵩 1-1-1）

参加者：16名

主催：Ginowan Tech

後援：宜野湾市

協力：沖縄大正製薬株式会社

<イベント概要>

2024年3月17日（日）オープンデータの利用を促進するためのイベントである「オープンデータ・デイ 2024 in 沖縄」（主催：GinowanTech）を開催しました。イベントには16名の皆さまが参加しました。今年は防災・減災をテーマに、オープンデータの基礎を学び、災害時の利活用を考えました。また今回のイベントは、宜野湾市様による後援（会場提供）大正製薬株式会社様による協力（長期保存用リポビタンゼリーの提供）により開催されました。

<講話：防災・減災から見るオープンデータ入門>

災害時にも役立つ「オープンデータとは」と題してアイパブリッシング株式会社代表取締役でデジタル庁オープンデータ伝道師の福島健一郎氏より講話を頂きました。講話ではオープンデータの定義や今回の地震でオープンデータが活用された事例なども紹介して頂きました。平時からオープンデータ整備することで、万が一の時にデータを利用して迅速な行動ができることをお話して頂きました。

<グループワーク：オープンデータ等を利用して防災/減災を考える>

宜野湾市を対象にオープンデータを含む様々なデータを活用し、災害が発生した場合のリスクとその備えについてグループに分かれて考えました。

- 参考にしたデータはこちら

宜野湾市 オープンデータ

https://www.city.ginowan.lg.jp/opendata_top/index.html

宜野湾市地図情報システム（オープンデータにはなっていないが、防災に関するデータが集約されている）

<https://www.gis.city.ginowan.okinawa.jp/ginowan/Portal>

「津波に特化したデータの整備」

避難所や避難先となる公園や交差点など緯度経度・標高を含めた情報をオープンデータとして整備する必要がある。このデータによって災害時に最短で近くの場所への避難が可能になる。土地勘がない人にとっても有用ではないか。

また、宜野湾市の津波監視カメラの動画は公開されていないので、公開してほしい。津波を見に行く人が減るのではないか。

「医療的ケア児・災害時要支援者の電源確保のためのデータ」

去年の台風で停電が長引き、医療的ケアが必要な人たち（在宅医療）の医療機器の電源確保の問題が上がった経験がこのテーマにしたきっかけ。

医療機器の電源を地域で備えることが大事。発電できる場所のデータを調べてみると宜野湾市内で（医療機関が十分に）充電ができる施設は、5件しかヒットしない。データがない。エネルギーマップのようなデータができるといい。エネルギーマップには、施設情報・緯度経度・蓄電だけなのか発電もできるのか、などのデータがあるといい。行政だけでは集めきれないデータなので、医療機関や企業など、地域の協力者も必要だと思う。シビックテックコミュニティが間に入って整備する必要があるのではないか。

「避難所に関するデータを拡充」

指定緊急避難所・福祉避難所があるが、福祉避難所ってなに？からはじまった。調べてみると沖縄県がまとめているデータがあり、高齢者施設や避難所などの県内全域のデータが載っている。ただ、指定避難所と福祉避難所のマークがまったく同じで区別がつかない。どこの避難所に逃げたらいいのかわからない。市民に届きにくいので情報量が欲しい。県の管轄と市の管轄という縦割りの構造上難しいと思うので、シビックテックコミュニティのような組織が協力することが必要かもしれない。

Macで宜野湾市の防災関連のオープンデータは開くと文字化けするので、直して欲しい。

「断水時に確保できる水の把握」

大きな災害が起きたときには、水の問題が最終的に大きなものになるのではと考え、このテーマにした。

宜野湾市内の井戸のマッピングをしているデータがあったが、その井戸は使えるものなのか分からない。実際に市民意識調査で、震災後最も困ったことはなんですか？との質問に「生活用水の確保」との回答が最も多かった。生活用水がどこで確保できるのかのデータを整備する必要があるのではないか。

<参加者の感想>

- ・ 防災や減災こそオープンデータの真価が発揮できると思います。
- ・ 災害の時にどんなことに困るかみんなでも共有できました。
- ・ 福島さんの話がタイムリーで勉強になりました。
- ・ 楽しく学ぶことができました。

<GinowanTech (G-tech)について>

GinowanTech (G-tech)は宜野湾市主催「シビックテックによる市民協働まちづくり講座」の受講生が、講座終了後に立ち上げたコミュニティです。